

第14次中期経営計画 (2023～2026年度) 見直し説明資料



2025年5月16日
日本精化株式会社

内容

1. 経営理念・パーパス・ビジョン
2. 中期経営計画の見直し①: 概要・経営指標
3. 中期経営計画の見直し②: 投資計画
4. 中期経営計画の見直し③: 事業戦略
5. 中期経営計画の見直し④: 資本政策・株主還元

内容

1. 経営理念・パーパス・ビジョン

2. 中期経営計画の見直し①: 概要・経営指標

3. 中期経営計画の見直し②: 投資計画

4. 中期経営計画の見直し③: 事業戦略

5. 中期経営計画の見直し④: 資本政策・株主還元

経営理念・パーパス・ビジョン



経営理念

Mission

日本精化は化学を通じて社会に貢献する

日本精化は我社をとりまく全ての人に貢献する

日本精化は社員の自己実現に貢献する

Purpose

「カガク」と「キレイ」の
チカラで笑顔あふれる
サステナブル社会創造
に貢献し続ける

NFC
VISION
2030

「キレイ」のチカラで
みんなを笑顔に

内容

1. 経営理念・パーパス・ビジョン
- 2. 中期経営計画の見直し①: 概要・経営指標**
3. 中期経営計画の見直し②: 投資計画
4. 中期経営計画の見直し③: 事業戦略
5. 中期経営計画の見直し④: 資本政策・株主還元

中期経営計画 見直し概要

	2023年5月12日公表	2025年4月30日公表
基本方針	積極的な投資による 成長基盤強化ステージ	変更なし
事業ポートフォリオ見直し	セグメント再構築	変更なし
戦略品目の設定	・リン脂質といえは日本精化 ・ペロブスカイト太陽電池用素材	変更なし
経営目標数値	売上高／営業利益／ EBITDA／ROIC	売上高／営業利益／ EBITDA／ROIC を見直し
設備投資	4年間で120億円	4年間で160億円 に見直し
研究開発投資	・マテリアリティの実行 ・将来のコア技術の創出 ・売上高研究開発比率	変更なし
資本政策／株主還元	DOE／一株当たりの配当額／ 総還元性向／政策保有株式比率	DOE／一株当たりの配当額 を見直し

*EBITDA: 償却前営業利益 *ROIC: 投下資本利益率

*DOE: 連結純資産配当率(年間配当総額÷連結純資産、若しくは配当性向×ROE)

中期経営計画 経営指標の見直し

【中期経過最終年度までの見直し】

	第14次中期経営計画					
	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	
	実績	実績	実績	予想	当初目標	見直し後
売上高(億円)	368.4	335.3	356.6	342.0	410.0	380.0
営業利益(億円)	50.6	42.0	49.0	50.0	57.0	58.0
EBITDA(億円)	60.1	55.0	62.5	64.9	77.9	75.1
ROIC	7.9%	6.3%	7.1%	7.2%	8.0%	8.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益 (億円)	40.8	33.3	38.7	40.0	—	49.0
設備投資	(*1)	4年間で120億円から160億円へ				
売上高研究開発費率	2.4%	2.7%	2.7%	2.9%	2.7%	2.7%

【参考情報】

ありたい姿	
2030年度	
当初目標	見直し後
500.0	480.0
77.0	82.0
111.8	111.0
9.0%	10.0%
—	—
—	—
—	—

(*1) : 第13次中期経営計画(2018—2022年度) 5年で109億円

内容

1. 経営理念・パーパス・ビジョン
2. 中期経営計画の見直し①: 概要・経営指標
- 3. 中期経営計画の見直し②: 投資計画**
4. 中期経営計画の見直し③: 事業戦略
5. 中期経営計画の見直し④: 資本政策・株主還元

投資計画(ビューティケア分野)の見直し

【当初計画(2023年5月12日公表)】

- 化粧品用リン脂質素材設備増設
 - ・増設場所：高砂事業所
 - ・投資額：23億円
 - ・完成目標：2026年度



【見直し計画】

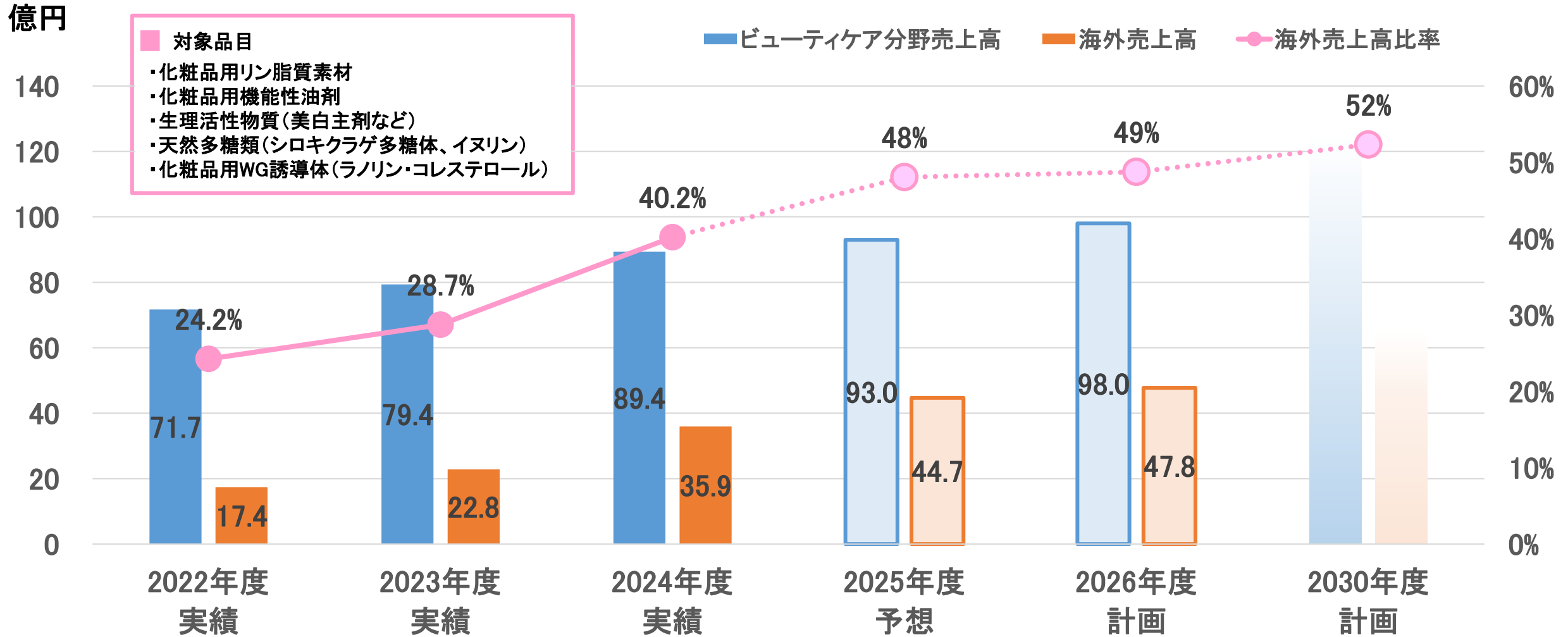
- 化粧品用リン脂質
 - 現有設備の有効利用で生産力増強
- 化粧品用機能性油剤プラント(CIP)新設
 - ・新設場所：高砂事業所
 - ・投資額：約86億円
 - ・営業稼働：2029年

【見直しの背景】

- 背景① 化粧品用リン脂質素材
 - ・中国景気減速により販売が計画未達。
 - ・戦略品目は変わらず、研究開発・拡販に注力は継続。

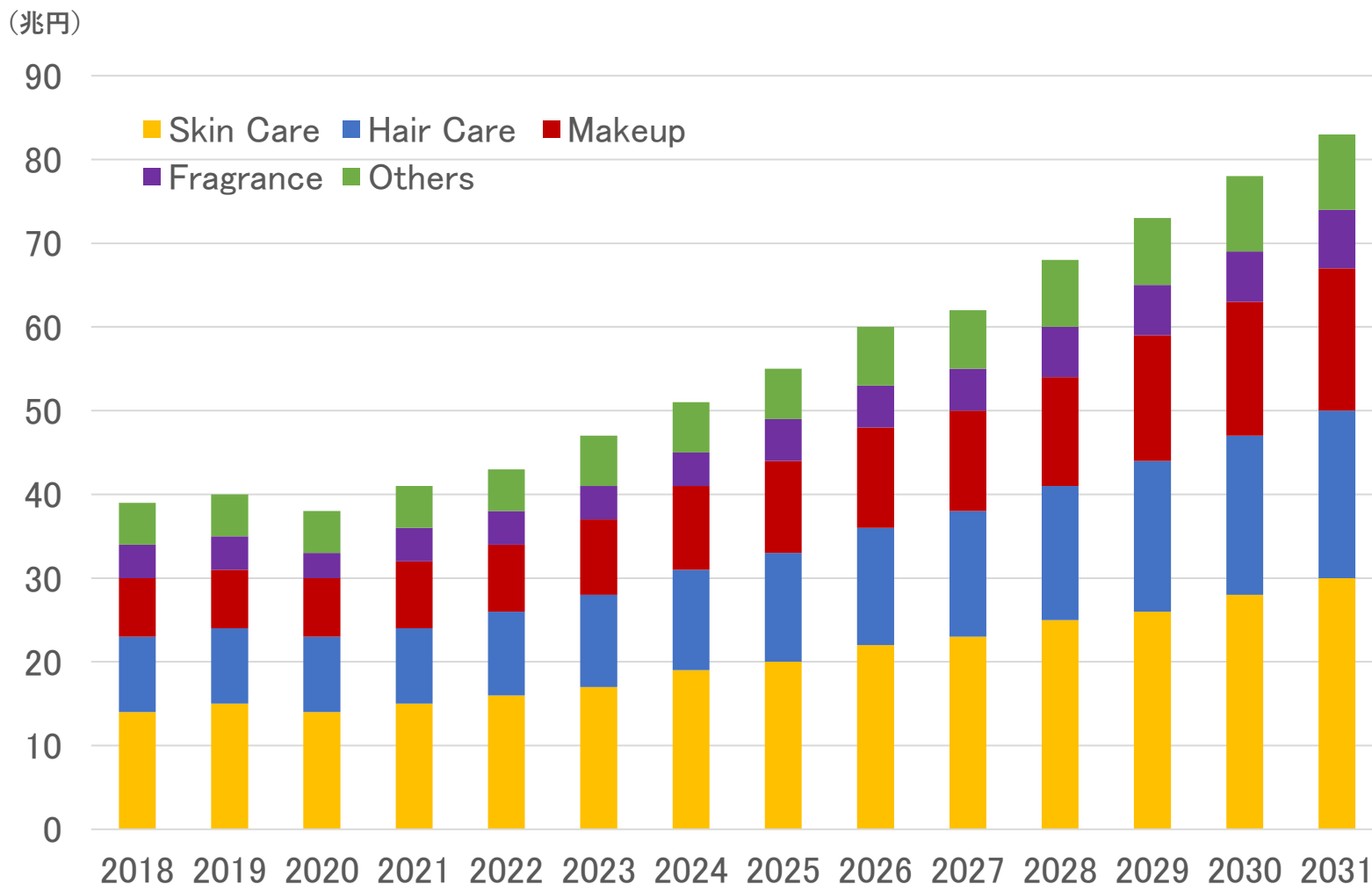
- 背景② 化粧品用機能性油剤
 - ・サステナブル対応により海外での販売進展により当初目標を上回る販売で更なる需要拡大が見込まれる。
→ 投資を優先。

ビューティケア分野 海外売上高比率推移



「化粧品用機能性油剤」の海外売上比率が、2023－2024年度に急増し全体を牽引
ビューティケア全体では、次期中期期間中に海外売上比率50%を超える計画

グローバル化粧品市場 市場成長率



世界の化粧品・パーソナルケア市場
CAGR* (2022-2031年) : 約7.2%
 2024年 : 約3,402 億ドル (約51兆円)
 2031年 : 約5,511 億ドル (約82.7兆円)

<地域別 CAGR見込>

- ・ 米国 : 約7.3%
- ・ 欧州 : 約6.9%
- ・ アジア太平洋地域 : 約8.8%
- ・ 中国 : 約7.6%
- ・ 韓国 : 約6.0%

* CAGR : Compound Annual Growth Rate 年平均成長率

データ引用元:
 Cosmetics Market Analysis and Segment Forecasts to 2031 (2022年)
 150円/ドルで算出

グローバル市場は、年平均成長率で7.2%の成長市場

化粧品用機能性油剤プラント(CIP) 概要

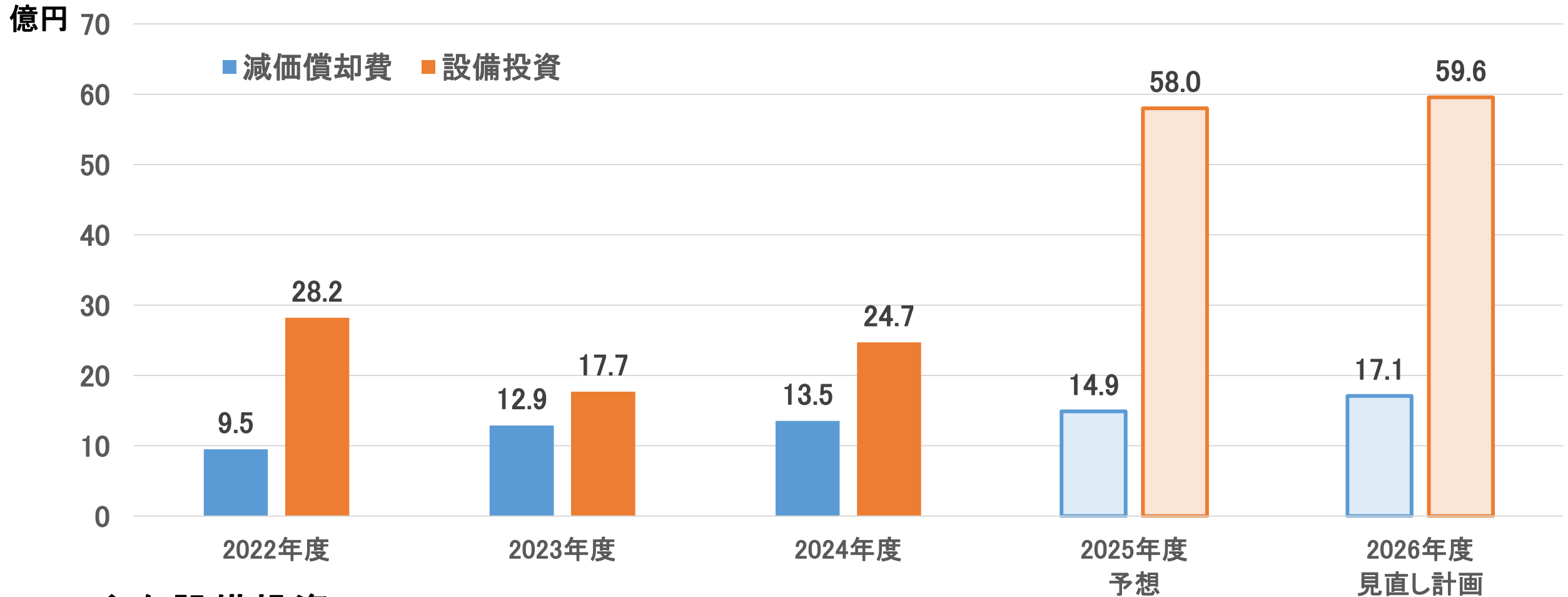
【投資の目的】

将来の需要対応	供給安定性の確保、継続的な事業利益の獲得。
老朽化対策	職場環境の整備による従業員エンゲージメントの向上。 環境負荷の低減によるサステナブル生産対応。
品質保証体制の整備	サプライチェーンマネジメント強化のための環境整備。
自動化・省力化の推進	労働人口減少下での生産効率性の向上。

【新設設備の概要】

建設エリア	高砂事業所
投資金額	約86億円
生産能力	設備投資前 約1,150MT/Y 設備投資後 約2,400~2,650MT/Y 生産能力2.1~2.3倍
建設期間 (予定)	2025年~2029年
営業稼働 (予定)	2029年

設備投資



主な設備投資

■ 2023-2026年度(4年間) 設備投資 総額約160億円

■ 2024年度 事務厚生棟新設(加古川東)

■ 2025-2026年度 化粧品原料プラント新設(2029年稼働予定)

内容

1. 経営理念・パーパス・ビジョン
2. 中期経営計画の見直し①: 概要・経営指標
3. 中期経営計画の見直し②: 投資計画
- 4. 中期経営計画の見直し③: 事業戦略**
5. 中期経営計画の見直し④: 資本政策・株主還元

中期経営計画 サブセグメント別 収益計画 見直し

	2023年度実績			2024年度実績			2025年度予想			2026年度 見直し計画			2026年度 当初計画		
	売上高	営業利益	EBITDA	売上高	営業利益	EBITDA	売上高	営業利益	EBITDA	売上高	営業利益	EBITDA	売上高	営業利益	EBITDA
機能性製品	262.0	36.0	48.1	284.4	43.1	55.8	259.6	48.1	56.4	277.8	48.1	64.2	288.6	44.6	64.4
ビューティケア	79.4	21.9	24.4	89.4	24.2	27.3	93.0	22.0	25.7	98.0	24.7	29.6	94.0	18.5	未公表
ヘルスケア	58.3	4.5	11.9	60.5	10.2	17.9	66.0	12.4	20.6	69.0	14.2	22.7	75.0	12.6	
ファインケミカル	52.0	6.4	8.4	56.1	5.1	7.0	56.0	6.0	8.1	61.8	7.2	9.9	61.6	11.5	
トレーディング	72.3	3.2	3.3	78.4	3.6	3.7	44.6	2.0	2.1	49.0	2.0	2.1	58.0	2.0	
環境衛生製品 (ハイジーン)	70.8	4.9	5.4	69.9	5.2	5.8	80.0	7.0	7.6	99.0	8.3	8.9	119.0	11.5	12.3
その他	2.5	1.1	1.4	2.3	0.6	0.9	2.4	0.6	0.9	3.2	1.6	1.9	2.4	0.9	1.2
連結合計	335.3	42.0 (12.5%)	55.0 (16.4%)	356.6	49.0 (13.7%)	62.5 (17.5%)	342.0	50.0 (14.6%)	64.9 (19.0%)	380.0	58.0 (15.3%)	75.1 (19.8%)	410.0	57.0 (13.9%)	77.9 (19.0%)

対当初計画 売上高30億円減も、営業利益率／EBITDAマージンは向上へ

事業戦略・収益計画 ビューティケア分野

2023-2024年度(前半進捗)

【事業戦略】

- ・化粧品用機能性油剤の海外売上増
- ・化粧品用リン脂質素材の新規用途開拓
- ・新プラント 投資計画の推進

【収益進捗】

- (2024vs2022年度)
- ・売上高: +17.7億円
(2022年度:71.7億円)
 - ・営業利益: +4.7億円
(2022年度:19.5億円)

2025-2026年度(後半計画)

【事業戦略(変更なし)】

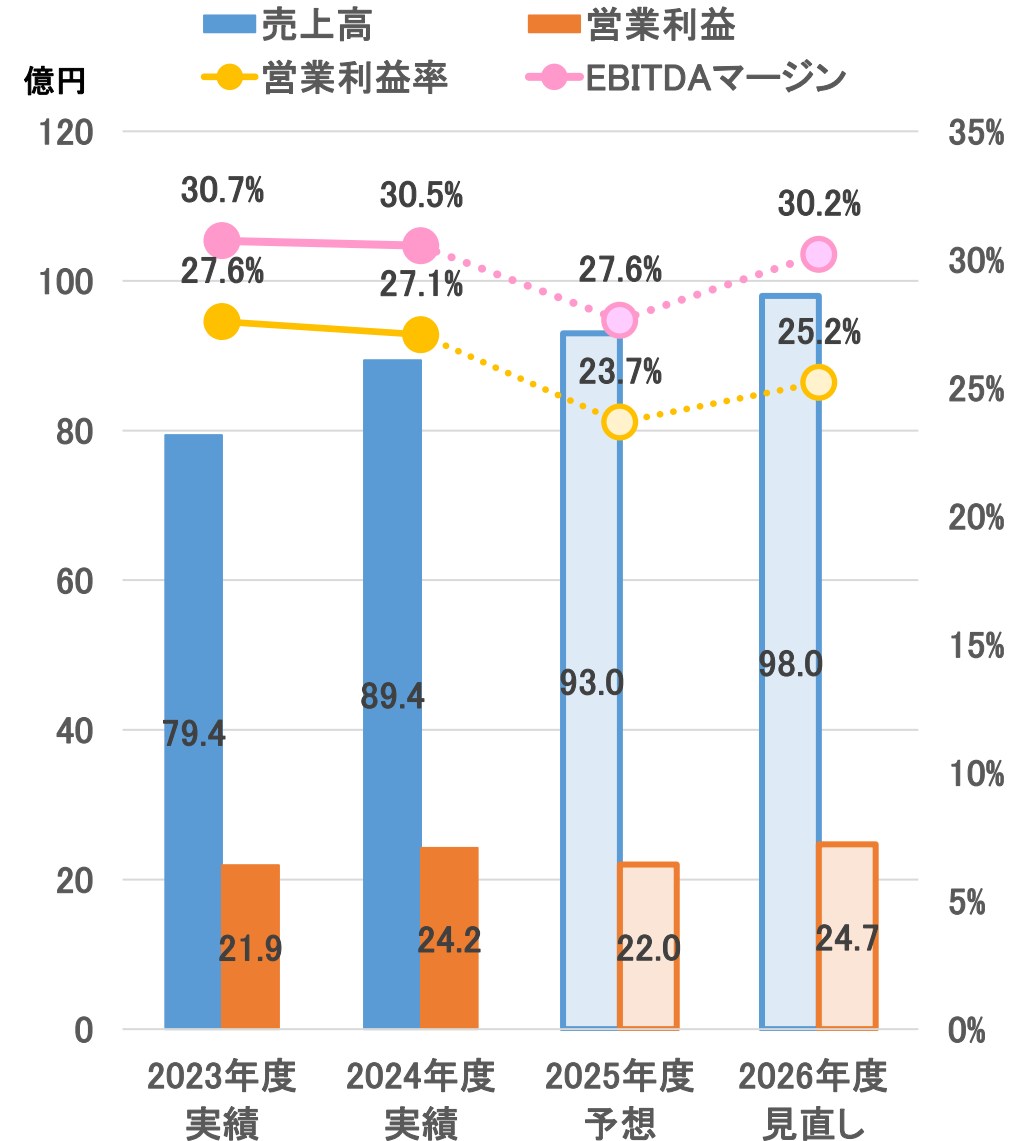
- ・サステナビリティ対応の継続
- ・化粧品用リン脂質素材は戦略品目を継続
- ・新プラント 建設開始

【収益計画】(見直しvs当初)

- ・売上高: +4.0億円
- ・営業利益: +6.2億円

2027-2030年度 見通し

- ・新プラント完成、収益へ貢献 (2029年稼働)
- ・EBITDA最大化 (償却費負担による一時的営業利益減少)



事業戦略・収益計画 ヘルスケア分野

2023-2024年度(前半進捗)

【事業戦略】

- ・新プラントでの商業生産開始
- ・医薬品用リン脂質素材の海外向け売上増
- ・オープンイノベーション(湘南ラボ)でのテーマ獲得
- ・独自素材の連続合成プロセスによる製法の確立

【収益進捗】

- (2024vs2022年度)
- ・売上高: +3.9億円
(2022年度:56.6億円)
- ・営業利益: +3.2億円
(2022年度:7.0億円)

2025-2026年度(後半計画)

【事業戦略(変更なし)】

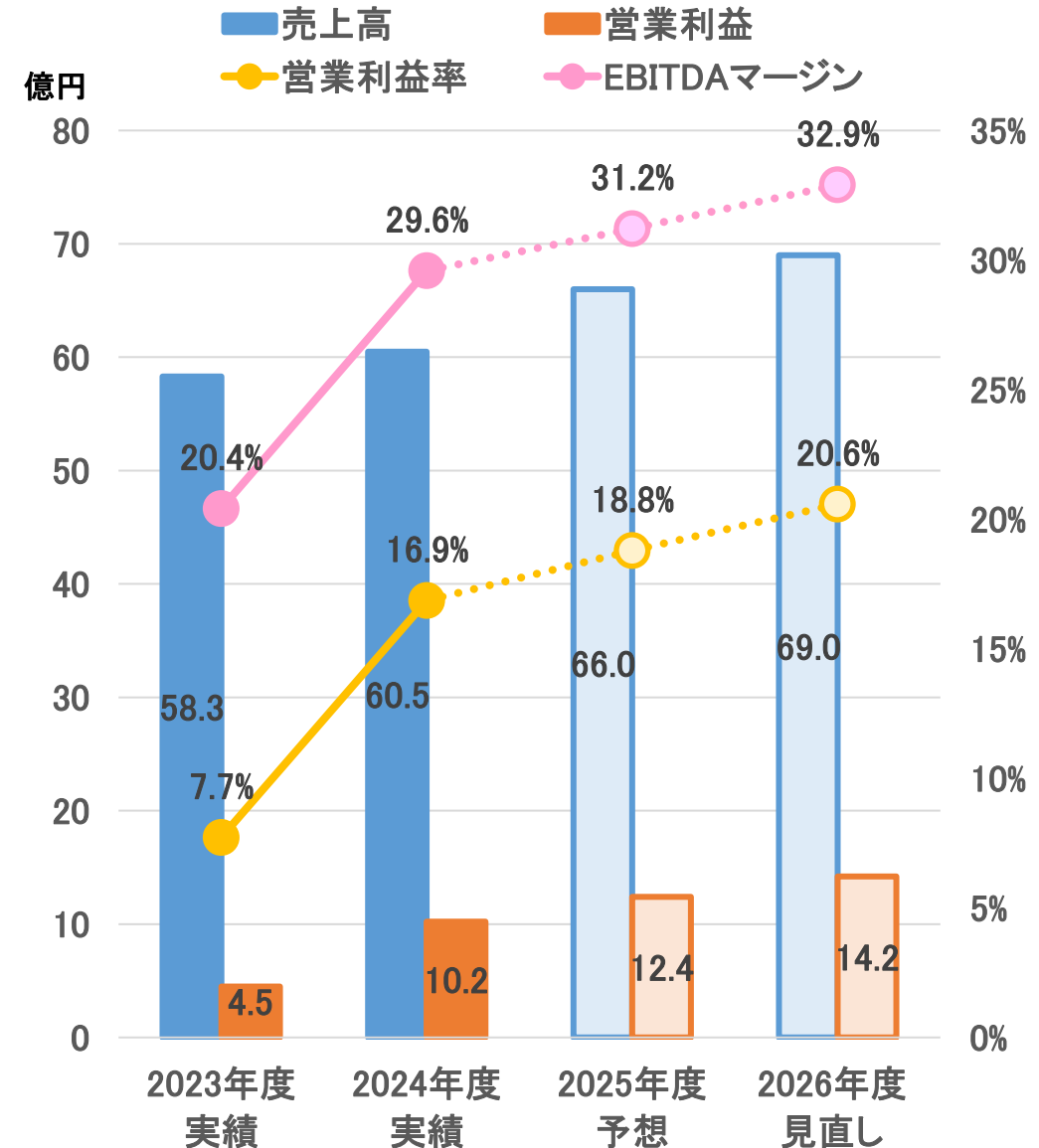
- ・競争力強化のための事業効率化
- ・独自素材を活用した製剤による差別化
- ・オープンイノベーションの加速
- ・連続合成プロセスの収益化

【収益計画】(見直しvs当初)

- ・売上高: ▲6.0億円
- ・営業利益: +1.6億円

2027-2030年度 見通し

- ・2026年度までの各種開発テーマの収益化
- ・連続合成プロセスでの収益化



事業戦略・収益計画 ファインケミカル分野

2023-2024年度(前半進捗)

【事業戦略】

- ・「選択と集中」に目途。
- ・ペロブスカイト太陽電池の社会実装の進展
- ・WG誘導体の販売戦略の見直し

【収益進捗】

- (2024vs2022年度)
- ・売上高: ▲14.4億円
(2022年度:70.5億円)
 - ・営業利益: ▲7.3億円
(2022年度:12.4億円)

2025-2026年度(後半計画)

【事業戦略】

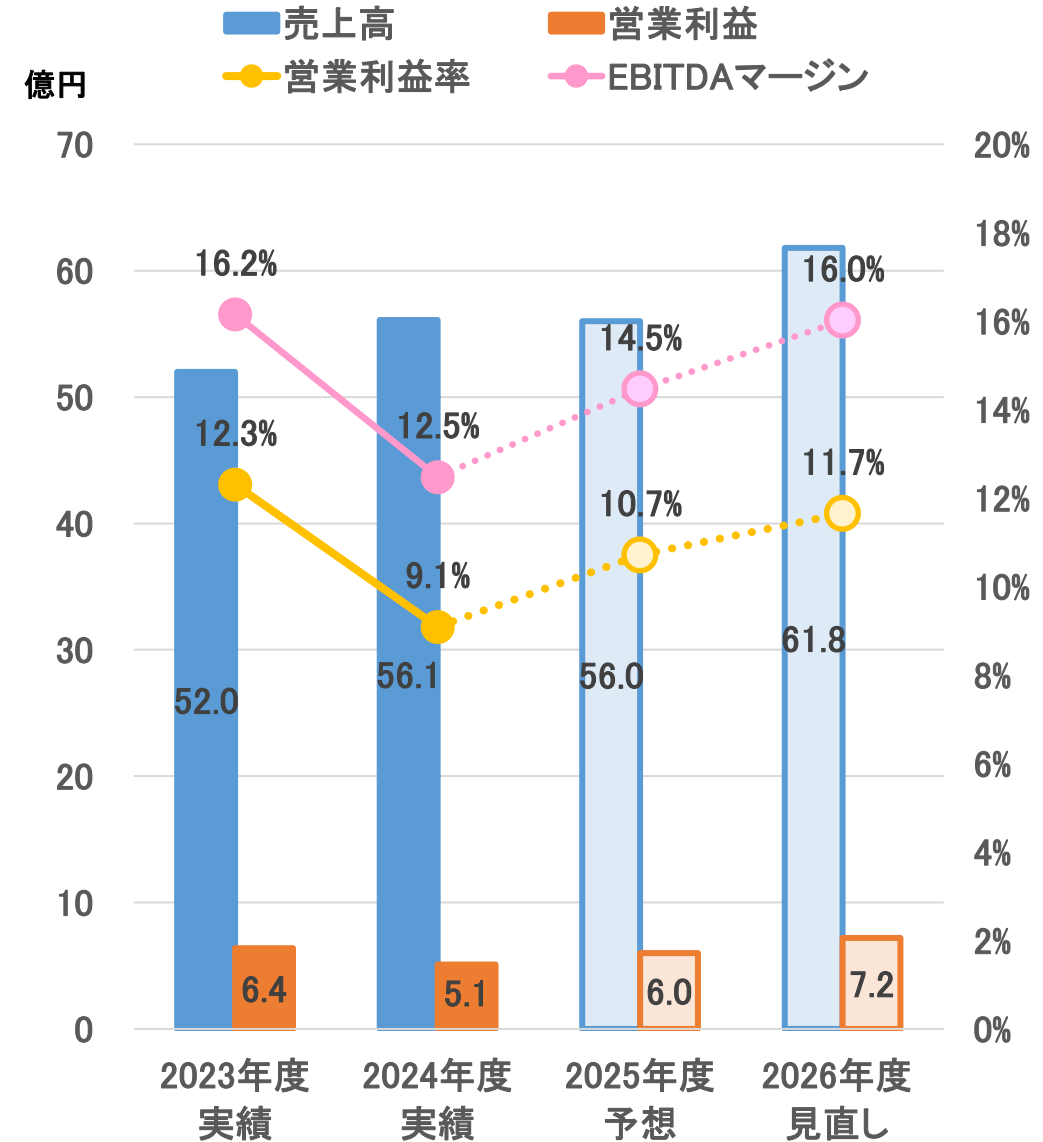
- ・ペロブスカイト太陽電池用素材開発に最注力
- ・新たなコア事業の探索
(収益発現は次期中期以降)
- ・WG誘導体の適正価格での販売、効率的生産体制の推進。

【収益計画】(見直しvs当初)

- ・売上高: +0.2億円
- ・営業利益: ▲4.3億円

2027-2030年度 見直し

- ・ペロブスカイト太陽電池用素材の実用化による収益化
- ・新たなコア事業での収益への貢献



事業戦略・収益計画 ハイジーン分野

2023-2024年度(前半進捗)

【事業戦略】

- ・流通在庫の影響や感染意識低下により売上減
- ・フードビジネス分野をターゲットに選定
- ・SPD業者との連携: 医療用衛生製品に注力

【収益進捗】

- (2024vs2022年度)
- ・売上高: ▲10.8億円
(2022年度: 80.7億円)
 - ・営業利益: ▲2.2億円
(2022年度: 7.4億円)

2025-2026年度(後半計画)

【事業戦略】

- ・サステナブル製品の開発、拡販で売上拡大
- ・食品向け衛生製品の売上拡大
- ・病院・介護施設向け製品での顧客獲得
- ・相互資源を活用したグループシナジーの強化

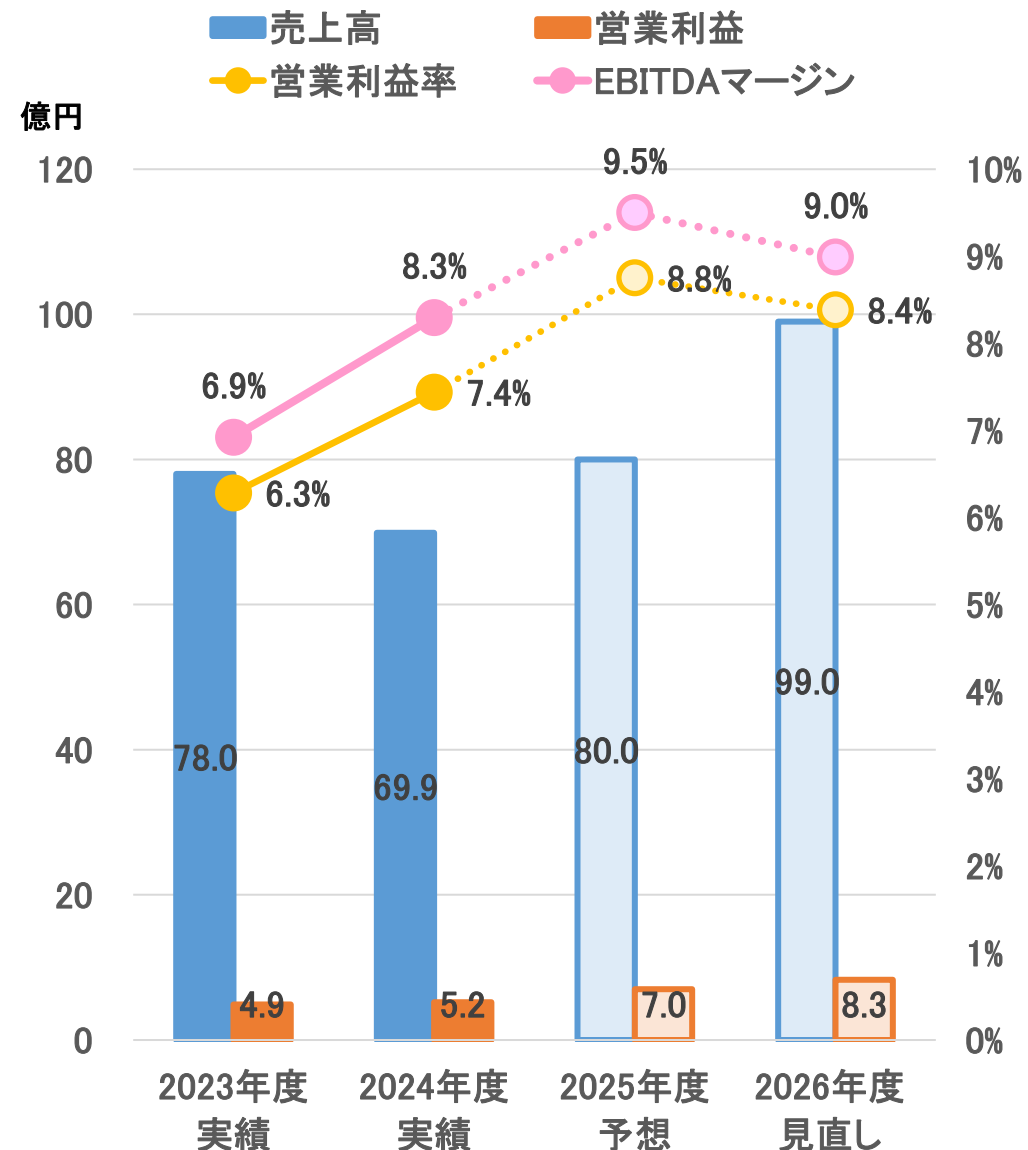
【収益計画】(見直しvs当初)

- ・売上高: ▲20億円
- ・営業利益: ▲3.2億円

2027-2030年度 見通し

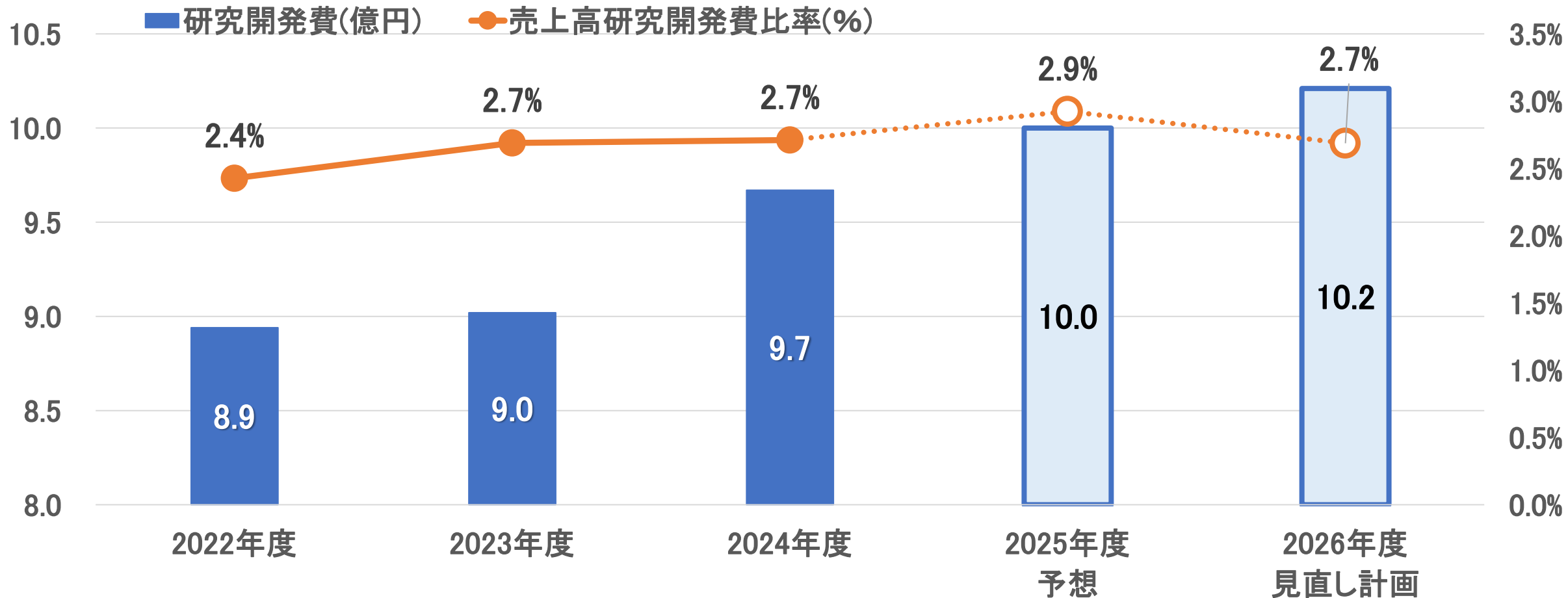
- ・フードビジネス、医療用・介護衛生製品で収益増
- ・濃縮技術をはじめとしたサステナブル製品の拡販による収益増

* SPD: Supply Processing and Distribution 院内物流管理システム
病院が使用する医療消耗品の供給・在庫・加工などの物流を一元管理する方法のこと。



研究開発投資

億円



- マテリアリティ実行による生産活動のサステナブル化
- フローリアクターの実用化検討
- プロセスシミュレーターを活用した生産効率の最大化

内容

1. 経営理念・パーパス・ビジョン
2. 中期経営計画の見直し①: 概要・経営指標
3. 中期経営計画の見直し②: 投資計画
4. 中期経営計画の見直し③: 事業戦略
5. 中期経営計画の見直し④: 資本政策・株主還元

資本政策・株主還元

	第14次中期経営計画						ありたい姿	
	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度		2030年度	
	実績	実績	実績	予想	当初目標	見直し後	当初目標	見直し後
DOE(%)	3.0	3.5	3.5	4.3 (目安)	3.5 (目安)	4.3 (目安)	—	5.0 (目安)
一株当たり配当額(円)	57	70	74	94	80	100	100	135
総還元性向(%)	79	77	43	—	平均50以上(*)		—	—
政策保有株式比率(%)	25	24	21	—	17以下		10以下	10以下

(*)第14次中期経営計画の期間中で平均50%以上

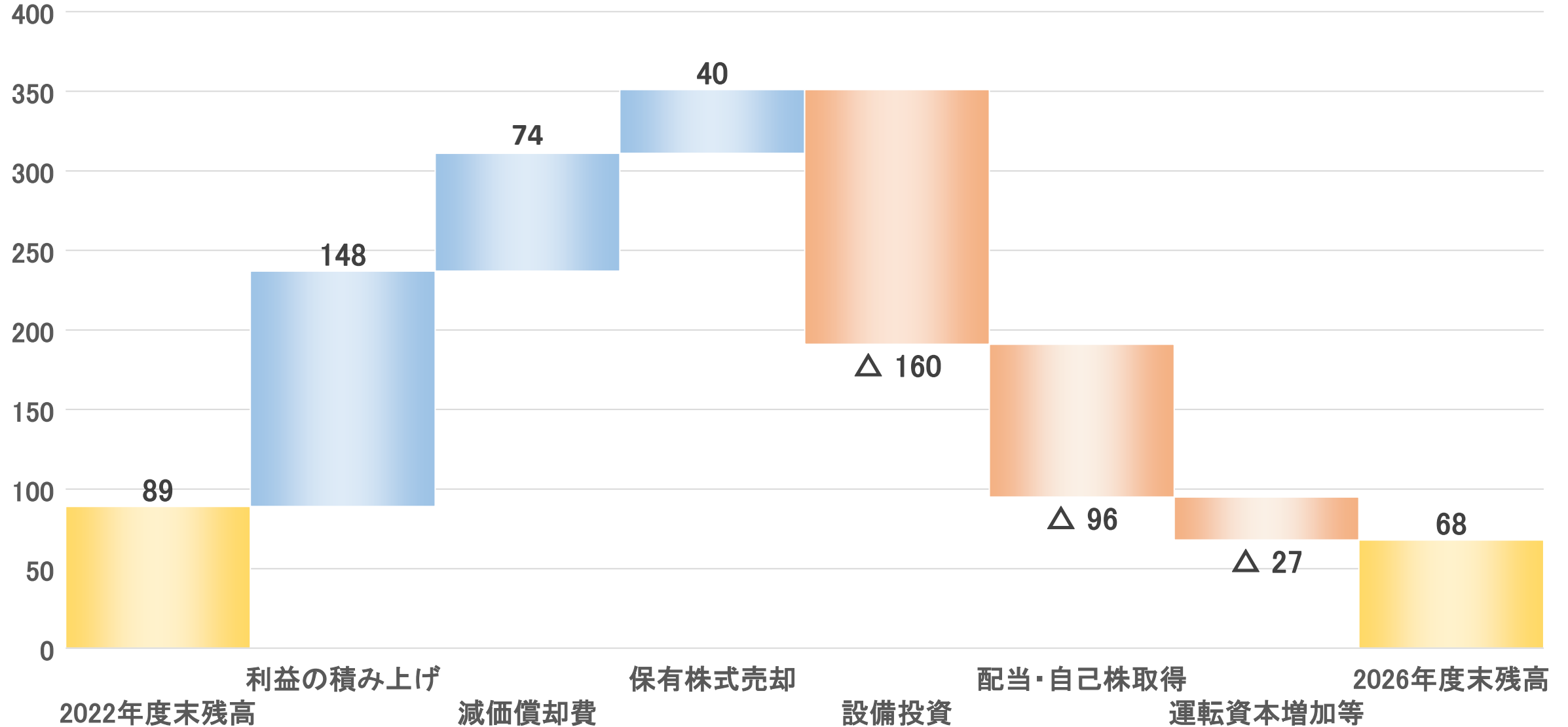
※DOE : 連結純資産配当率 (年間配当総額 ÷ 連結純資産、若しくは配当性向 × ROE)

総還元性向 : (配当総額 + 自己株式取得額) ÷ 親会社株主に帰属する当期純利益

政策保有株式比率 : 「保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式」の「貸借対照表計上額の合計額」が連結純資産に占める比率

現預金収支計画

億円



- 本資料に記載している業績予想等に関する記述は各資料の作成時点において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
- 実際の業績は、各種要因により、これらの業績予想とは異なる結果になり得ることをご承知おきください。